

セーブ・ザ・チルドレン 子ども給付金 新入学サポート 2024

(イメージ)

「子ども給付金～新入学サポート2024～」 実施結果報告書

2024年6月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



Save the Children

【事業背景】

- ・日本は教育機関への公的支出が低く、子どもへの社会保障政策が十分ではない状況で、**子どもの成長に必要な費用に対する家庭負担の割合が大きい。**
- ・義務教育は無償、高校も授業料は無償と言われているが、実際には就学にかかる費用が必要。特に、**新入学や卒業時にかかる家庭負担額が大きい。**セーブ・ザ・チルドレンが行った調査でも、多くの子どもや保護者が教育費の負担が大きいことをあげており、その軽減、無償化を求める声が多い。
- ・物価上昇などの影響により、**子育て世帯の経済困窮はより深刻化・長期化することが懸念される。**

【事業概要】

全国の経済的・生活上困難な状況にあり、特に中学および高校の卒業・入学に関わる費用が負担になっている家庭の子ども（新中1および新高1）に入学の時期に合わせて給付金を提供する。

定員：1,000人（新中1：400人、新高1：600人）

給付内容：新中1・3万円、新高1・5万円



※利用者提供

本給付金の対象条件

【対象者】

- 申請時に国内在住で、2024年4月に国内の中学校・高校に進学予定である
- 次の対象条件A～Cをすべて満たす

A. 現在の生活の状況がセーブ・ザ・チルドレンが設定する条件に当てはまる

1. 対象となる子どもまたは同居している家族に障害がある。
2. 対象となる子どもまたは同居している家族に日常的な支援または介護を必要とする疾病がある。
3. 対象となる子ども・保護者の両方またはどちらかが日本語を母語とせず、日常生活を送る上で日本語によるコミュニケーションが困難な状況で支援を受けている。
4. 対象となる子ども・保護者の在留資格が不安定、無国籍といった理由で公的支援が利用できない。
5. 上記1～4以外で下記に該当する。
 - ア. 対象となる保護者が家庭内暴力（DV）を受けている、または、それにより避難している。
 - イ. 対象となる子どもが保護者の代わりに、未就学のきょうだいのケアを日常的に行っているために学校の遅刻や欠席が多い、あるいは成績が落ちてしまうなど学業に支障が出ている。
 - ウ. 疾病・障害以外の理由で父母以外が対象となる子どもを養育しているなど、家庭環境に事情があり支援を受けている。
 - エ. ア～ウの条件以外で生活上相当な配慮が必要な状況にある。

B. 所得条件を満たす世帯（住民税非課税世帯相当）

C. 卒業・入学に関わる費用を用意することが難しい

申請・認定結果

①申請・給付 世帯数・人数

	人数				備考
	中1	高1	その他	計	
申請数(*1)	758	864	4(*2)	1,626 (世帯数1,493)	申請世帯数の内訳 1. ひとり親世帯 1,020世帯 うち、母子家庭 991世帯 父子家庭 25世帯 その他ひとり親世帯 4世帯 2. ふたり親世帯 181世帯 3. その他世帯 8世帯 4. 不明(*3) 284世帯
給付確定数	456	539	0	995 (世帯数899)	

②給付確定数の内訳

899世帯	人数			備考
	中1	高1	計	
男	252	293	545	給付確定世帯数の内訳 1. ひとり親世帯 760世帯 うち、母子家庭 741世帯 父子家庭 15世帯 その他ひとり親世帯 4世帯 2. ふたり親世帯 133世帯 3. その他世帯 6世帯
女	204	245	449	
回答しない	0	1	1	
計	456	539	995	

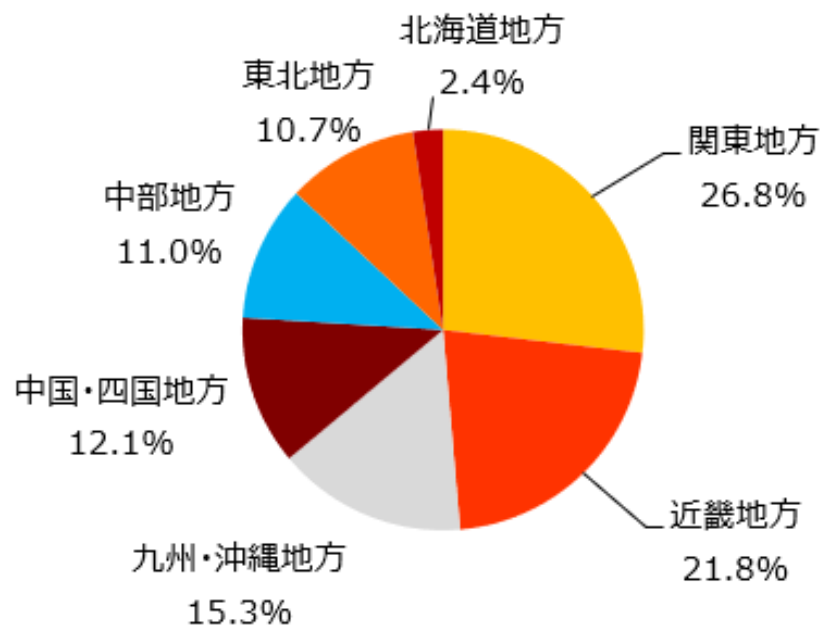
(*1)きょうだいの場合は、子ども1人につきそれぞれで申請。

(*2)「その他」は給付金対象外の学年からの申請。

(*3)今年度の給付金申請は二つのフォーム①②への入力が必要であったが、片方のフォーム①のみ入力されている方は、世帯構成の設問があるフォーム②が未入力であったため、世帯構成が「不明」の世帯が284世帯にのぼる結果となった。

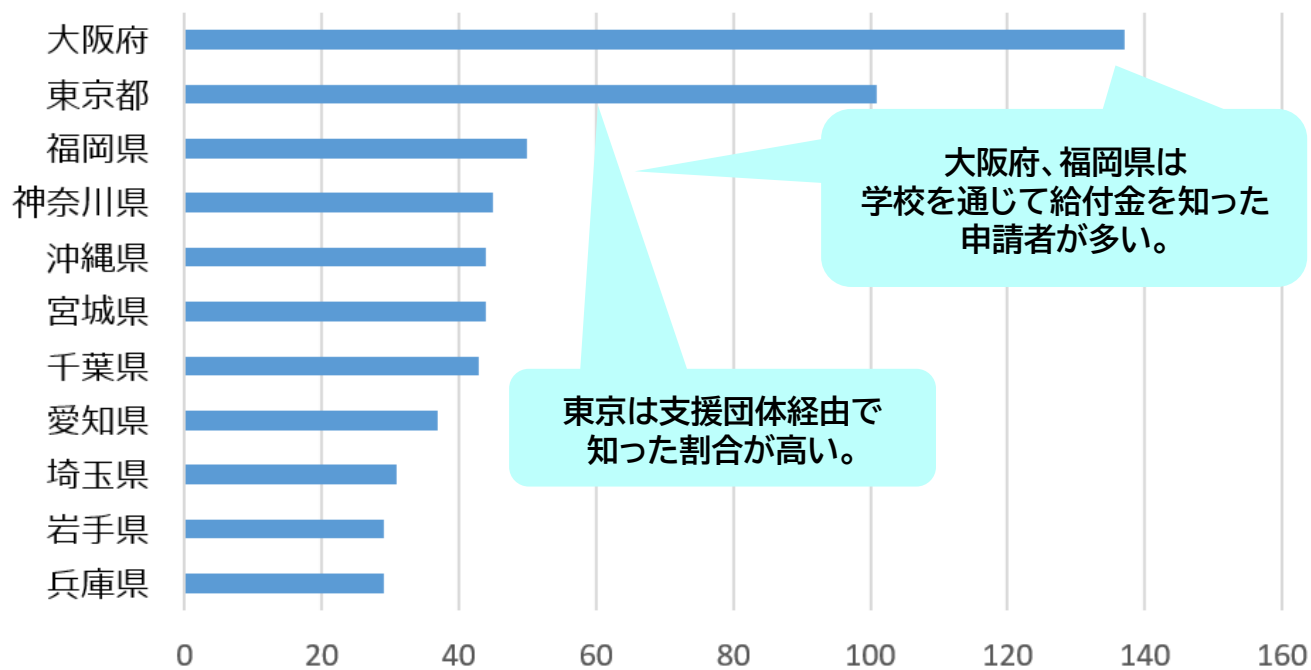
居住地域(給付確定者)

居住地域



n=995

給付確定者の多い都道府県



大阪府、福岡県は学校を通じて給付金を知った申請者が多い。

東京は支援団体経由で知った割合が高い。

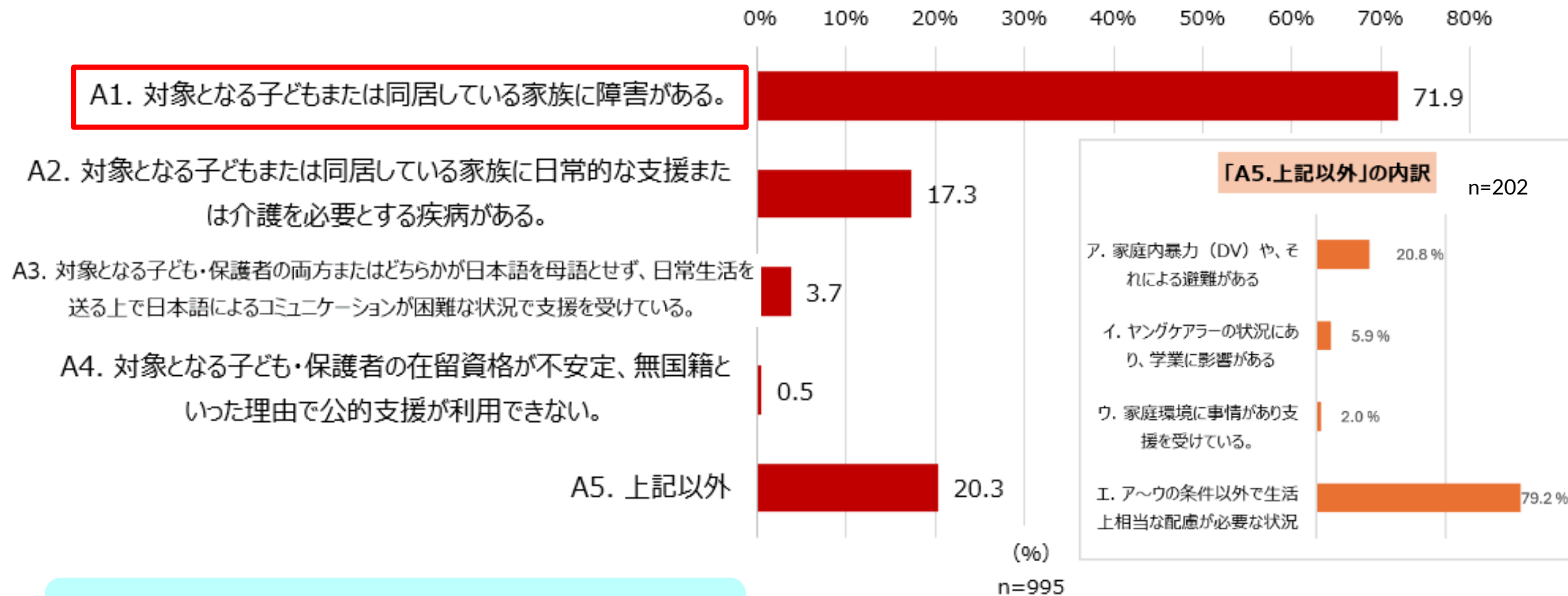
※全体の利用者は995人。上位10都道府県のみを抜粋

(人)
n=590

生活上の困難(給付確定者)

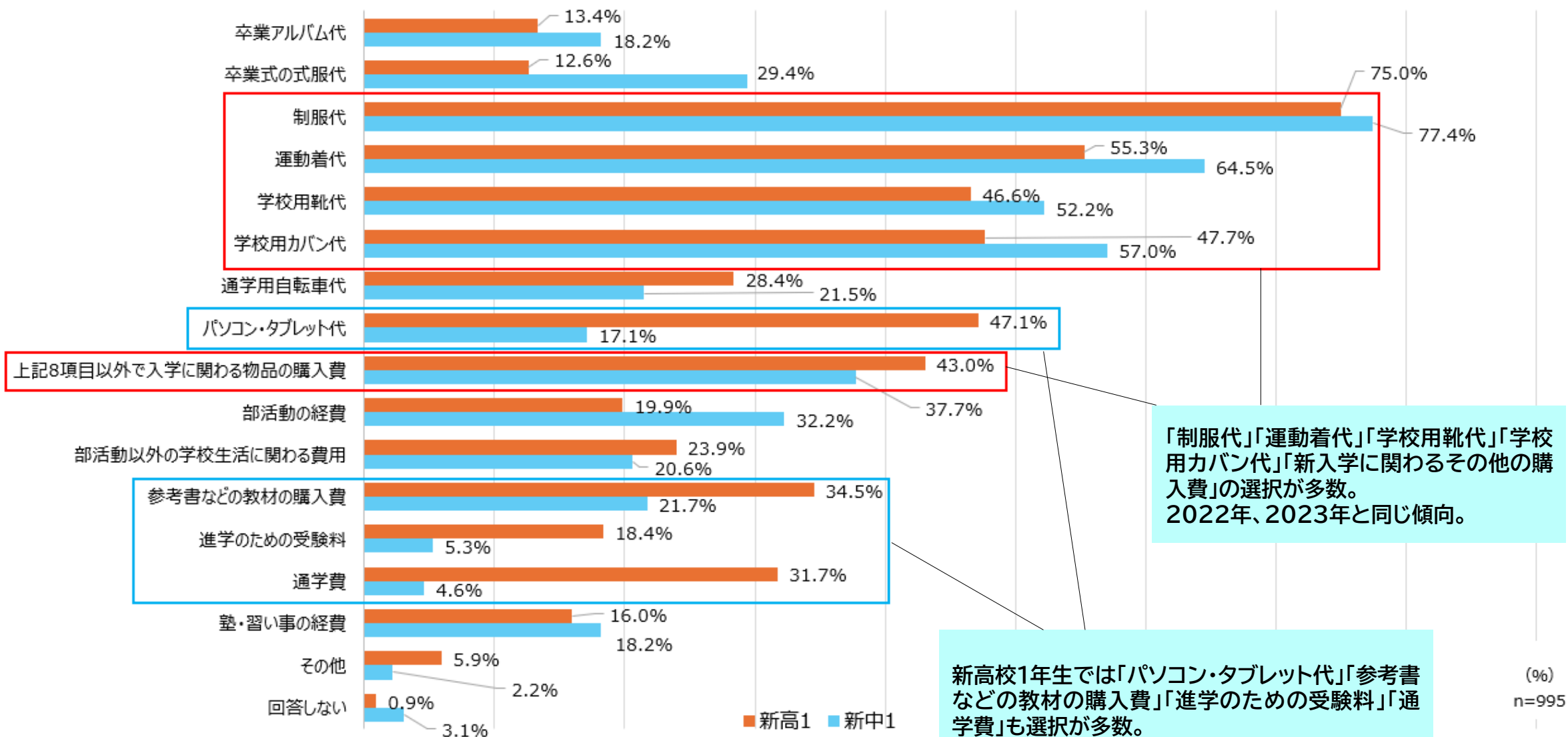
申請時に選択した「生活状況の対象条件」

* 複数選択のため、合計は100%を超えている。



「A1.子どもや同居家族の障害」の選択が7割以上
「A5.上記以外」の選択が約2割

費用の用意が難しい費目(給付確定者)



* 複数選択のため、合計は100%を超えている。

申請者の声《卒業・入学について不安に思うこと》(申請時アンケート自由記述より)

毎日フルタイムで働いていますが、日々の生活をギリギリ保つ事しか出来ません。子どもに少しの可能性があっても教育を受けさせるのにお金が気になり不安にさせて諦めさせてしまってます。(中1・保護者・千葉県)

父親は障害があり就労できず、母親だけが働いているが、父親のデイサービス利用時間や見守りが必要なため働ける時間は限られているので、費用を用意するのが難しく不安です。(中1・保護者・京都府)

障害児を抱えなかなか定職につけず収入がほぼない中、制服代や体操服や靴や通学に必要な学用品等の準備のお金やアルバム代が支払えていない。入学までに準備出来るかが不安です。障害児を抱えるシングルマザーへの支援や政策を国にしていだけたらよりありがたいと感じます。(中1・保護者・東京都)

両親が仮放免のため、働くことが出来ず 中学の制服を買うために親族からの借り入れが必要である。これからの中学校の生活もたくさんお金がかかると思うので心配です。(中1・保護者・埼玉県)

子どもは日本の学校のことがよくわかりません。説明を理解するにも、日本語の理解が十分にできません。そのため、間違えることが多くあります。受験についても出身国とは全く異なり、理解するのもやっとでした。外国人の親や子どもに対する援助や支援がもっとあるとよいです。子どもは、学校の授業を理解するのも大変で、週に数時間、日本語支援を受けていますが、正直十分とは言えないのが現状です。子どもが夢をあきらめなくてもいいように、外国人の子どもにも受けたい教育を受けるための門戸を広げてほしいです。(高1・支援者・青森県)

小学五年時から不登校になり、中2からフリースクールに通っています。公立の学校では、本人の発達障害の特性もあり、生きづらい生活環境にありました。自ら選んだフリースクールでは、自分らしく居られる心地良い居場所となり、現在は意欲的に通えています。しかし、その費用は、全て自己負担になるため、支払い継続が、本当に苦しい最中でいます。(高1・保護者・宮城県)

*カッコ内は子どもの学年、回答者属性、居住地

*自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。

申請者の声《国や社会に向けた要望》(申請時アンケート自由記述より)

成長期の為、制服や体操着、上履き、靴などすぐにサイズが合わなくなります。学校指定服は高く体操着も洗いがえに欲しくても買えません。最低限必要な物から購入していきませんがやはり生活費が圧迫します。(中1・保護者・兵庫県)

どうして、義務教育なのに、制服だけでも、10万円もかかるのでしょうか。室内履きやジャージなども指定で、市販品の6倍ぐらいします。サイズが合わなくなってしまった時など、非常に不安です。子どもが惨めでかわいそうなお事にならないよう、どうかかしたいです。(中1・保護者・京都府)

就学援助制度を利用しようと思い問い合わせましたが、支給は7月以降となると言われました。入学準備には間に合わなく困っています。援助制度なら入学に間に合うタイミングで援助して頂きたいと切に思いました。制服などを購入する資金が無い場合クレジットのリボ払いで購入するしかないがその後の返済にもギリギリの生活なので返済していけるかかなり不安です。(中1・保護者・静岡県)

学校に制服、教科書の貸与制度があると助かります。雇用不安の家庭のため、返済義務のある奨学金には手を出さない状況です。(高1・保護者・大分県)

入学準備金等の手当をもっと手厚くしてほしい。自治体任せでは本当に厳しいと思います。手当が手厚く出来なければ制服と学校指定のジャージの無償化を希望します。(中1・保護者・沖縄県)

就学援助費が足りないなので、もう少し金額を上げていただきたいです。(中1・保護者・埼玉県)

市の就学支援は利用しています。入学にあたり62000円程、支援金が出るようですが、卒業式のための服、制服代、運動着、上靴、カバン、他にも入学してから学用品代がかかるようなので、全然足りないのが不安です。(高1・保護者・埼玉県)

高校の授業料無償化は大変ありがたいですが、無償を受けるにしても先払いが必要です。生活困窮世帯では、まとまった資金を用意する事が非常に困難です。先払いするには借入れをする事がやむを得ません。(高1・保護者・東京都)

*カッコ内は子どもの学年、回答者属性、居住地

*自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。

給付金利用世帯の声《給付金で購入したもの・感想》(感想フォームより)

新高1の子どもには通学用の自転車を、新中1の子どもにはリュックサックや水筒等、学校で必要なものを購入させていただきました。2人とも大変喜んでおります。(中1と高1・保護者)



「やったー！」と言って、とても喜んでいました。昨日、制服が現金着払いで届いたので、支払いました。ありがとうございました。(高1・保護者)

子どもに障害がある為、働きに出る事ができない状況なので子どもに欲しい物等普段から我慢させている環境で今回こちらの給付金に応募しました。

給付金を入金して頂いてから卒業式や入学式、普段使いもできる靴を1番に買わせて頂きました。久々に買う新しい靴を試着している時から子どもが嬉しそうにしているそれを見た私も嬉しくなりました。(中1・保護者)

*すべて利用者提供写真

*カッコ内は子どもの学年、回答者属性

給付金利用世帯の声《給付金で購入したもの・感想》(感想フォームより)



今回の給付金の件で必要な物を購入する事ができ、とても助かりました。新高校生として新たに身を引き締め頑張る意欲があります。感謝です。
(高1・保護者)



この3月は制服、教材他にもいろいろ、お金がでていくことがあり親の私達自身も子供が進級して嬉しい反面不安もあり本当にこちらからの給付がわかった際は、嬉しくて涙がでましたし、本当に本当に感謝しかないです。(高1・保護者)

給付金が頂ける事になり、必要な通学用品、学用品を購入する事ができました。新品を購入したのはいつぶりでしょうか、「わあ？」と輝く子どもの顔、障害があっても嬉しい気持ちはみんな一緒です。中学生になり環境が変わりますがこの嬉しい気持ちを持ちながら学校へ通えそうです！(中1・保護者)



*すべて利用者提供写真
*カッコ内は子どもの学年、回答者属性

本給付金の調査結果をもとにした政策提言

セーブ・ザ・チルドレンは、本給付金の申請時アンケート結果をもとに、経済的に困難な状況にある子どもや子育て世帯への政策・施策が充実することを目指して、以下の対策を速やかに講じるよう文部科学省やこども家庭庁などに提言しました。

- 提言1: 学校指定品以外の選択を可能にし、価格の見直しを
- 提言2: 新入学にかかる費用の支援制度の拡充
- 提言3: 高校入学前の準備金の創設

「セーブ・ザ・チルドレン子ども給付金 ～新入学サポート2024～」申請時アンケート調査結果

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-shinnyugaku shinsei2024.pdf>

【問い合わせ先】

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 国内事業部 新入学サポート2024担当

Email: japan.kodomosupport@savechildren.or.jp

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4 階

TEL:03-6859-0398(平日 9時半～18 時) FAX:03-6859-0069